国立精神・神経医療研究センター
バイオバンク

（倫理指針に則る情報公開）

～次世代の医療のために～

以下の研究は、皆様よりNCNPバイオバンクに提供いただいた臨床試料（検体おもに血液・髄液等）と臨床情報の利用を倫理委員会で審査し、活用していただくことが認められた研究です。
この研究について知りたいことや、気になる点がありましたら、遠慮なく下記のバイオバンク窓口にご相談ください。ただし、個人情報の保護、知的財産権の保護により、ご対応・ご回答できない場合がありますので、予めご了承ください。
・本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。
・研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

【対象となる方】
2012/12/7～2019/8/31にご同意いただいた方

【研究課題名】　向精神薬の脳脊髄液中濃度とそれを規定する要因の検討

【研究責任者】　功刀　浩（国立精神・神経医療研究センター　神経研究所　疾病研究第三部）

【本研究の目的及び意義】
精神疾患の薬物療法では向精神薬の脳内濃度が重要であると考えられる。現在の臨床現場では薬物の効果・副作用発現の指標として一部の薬剤で血中濃度モニタリングが行われているが、脳内濃度については殆ど不明である。本研究では、精神疾患患者の血中および脳脊髄液中の向精神薬（ハロペリドール、リスペリドン、オランザピン、アリピプラゾール、クエチアピン、パロキセチン、セルトラリン、デュロキセセチン、ミルタザピン、エスシタロプラム 、バルプロ酸、ラモトリギン）などの濃度を測定する。

【本研究に提供している試料・情報】
血液、髄液

【問い合わせ窓口】
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターバイオバンク
所属　メディカルゲノムセンターバイオリソース部
電話番号　042-346-3520　　　e-mail：biobank※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)